

特別展

アーツ・アンド・クラフツとデザイン

ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで

4月9日(土) - 6月5日(日)

休館日=月曜日 ※5月2日(月)は開館
開館時間=9:30~17:00 ※5月27日(金)、28日(土)、6月3日(金)、4日(土)は19:00まで開館
観覧料=一般1,000円(800円)、高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

アーツ・アンド・クラフツは、産業化が進む19世紀後半のイギリスで興ったデザイン運動です。この運動を先導したウィリアム・モリスは、ハンド・メイドによる質が高く、実用的な美術工芸品を生産し、生活に人間らしい温かみを取り戻そうとしました。本展では、モリスによる多様なジャンルでの実践から英国での展開、独自の発展を遂げたアメリカへの影響まで、壁紙や織物、家具、金工、ステンドグラスなど約170点の多彩な作品により、日常品の有用性と美しさの両立を目指したこの運動の広がりを紹介します。



ウィリアム・モリス《いちご泥棒》1883年
Photo ©Brain Trust Inc.

特別展

福山城築城400年記念協賛事業

名刀 江雪左文字

—江雪斎、家康、頼宣が愛した刀の物語—

2023年2月4日(土) - 3月19日(日)

休館日=月曜日
開館時間=9:30~17:00
観覧料=一般1,000円(800円)、高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

ふくやま美術館が所蔵する「江雪左文字」は、南北朝時代に筑前国の刀工である左文字によって作られた太刀です。北条氏の武将、板部岡江雪斎がかつて所有し、徳川家康に献上されたのち、十男で紀伊藩初代藩主となった徳川頼宣へ譲られました。そして現在はこの福山の地に伝えられています。「江雪左文字」の伝来経緯は、一口の太刀が天下の名刀となっていく過程を如実に示すものです。本展では、かつての持ち主たちが愛した品々とともに「江雪左文字」を展覧し、この太刀に秘められた物語を紐解きます。



和歌山県指定文化財 徳川頼宣所用
《紅地桃文様糸入織珍羽織》
江戸時代(17世紀) 紀州東照宮蔵

特別展

絵本作家 谷口智則展

～いろいろまれるものがたり～

7月9日(土) - 9月11日(日)

休館日=月曜日 ※7月18日(月・祝)、8月15日(月)は開館、7月19日(火)は休館
開館時間=9:30~17:00 ※9月2日(金)、3日(土)、9日(金)、10日(土)は19:00まで開館
観覧料=一般1,000円(800円)、高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

絵本『100にんのサンタクロース』の作者・谷口智則は、20歳の時に海外の絵本作家の原画展に感銘を受け、独学で絵本作りを学びました。金沢美術工芸大学では日本画を専攻し、2004年に『サルくんとお月さま』でデビュー。フランスやイタリアの出版社からも絵本を出版し、近年は、壁画やモニュメント制作など、国内外のイベントでも活躍しています。本展では、絵本原画やサンタの立体作品などから谷口智則の約20年間を振り返ります。



谷口智則《いろいろまれるものがたり》2021年

福山城築城400年記念事業・福山城博物館リニューアル記念特別展

水野勝成と徳川四天王

—神君家康の守護者達— (第2会場)

10月1日(土) - 11月20日(日) 会場: 2階常設展示室(第3室)

休館日=月曜日 ※10月10日(月・祝)は開館、10月11日(火)は休館
開館時間=9:30~17:00
※11月11日(金)、12日(土)、18日(金)、19日(土)は19:00まで開館
観覧料=一般310円(250円)、高校生以下無料
※()内は有料20名以上の団体料金

2022(令和4)年は福山城築城400年の年です。これを記念した福山城博物館の展覧会について、福山城博物館を第1会場、ふくやま美術館を第2会場として同時に開催します。美術館では福山藩初代藩主水野勝成と、徳川家重鎮である酒井・本多・榊原・井伊の、徳川四天王に関する武器・武具を中心に展示します。それらは藩祖にまつわる、各家の歴史を表すものとして、大切に保管され、後世に受け継がれてきました。武家の魂である武器・武具の世界をお楽しみください。



国重要文化財 本多忠勝所用
《黒糸威胴丸具足(鹿角脇立兜・小具足付)》
桃山時代(16世紀) 個人蔵(岡崎市美術館博物館寄託)

特別展

福山城築城400年記念事業

リアル(写実)のゆくえ 現代の作家たち

生きること、写すこと

9月23日(金・祝) - 11月20日(日)

休館日=月曜日 ※10月10日(月・祝)は開館、10月11日(火)は休館
開館時間=9:30~17:00 ※11月11日(金)、12日(土)、18日(金)、19日(土)は19:00まで開館
観覧料=一般1,000円(800円)、高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

西洋からもたらされたリアリズムと、日本古来の迫真的な表現が出会い、化学反応を起こした明治時代。高橋由一の油彩画や、松本喜三郎の生人形のような、日本独自の〈写実〉が誕生しました。その系譜は今も脈々と受け継がれており、作家たちがそれぞれに〈写実〉をとらえ、咀嚼し、作品に昇華させています。本展では、明治期の作品を導入として、安藤正子や深堀隆介らの平面作品、小谷元彦や前原冬樹、満田晴穂らによる立体作品から、日本の近現代美術における〈写実〉表現を展望します。



満田晴穂《一如》2019年 ホキ美術館蔵

教育普及事業

第52回世界児童画展

7月30日(土) - 8月7日(日)

世界の児童画と、国内・県内の児童・生徒の優秀作品を展示します。



第14回ふくやま子ども「生きる」美術展

2023年1月2日(月・休) - 1月15日(日)

児童・生徒それぞれの「生きる」をテーマとして個性豊かに描いたみずみずしい作品の中から、受賞作品を展示します。



スクール・プログラム 《小中学生対象プログラム》



対話形式の鑑賞

クラス単位にわかれ、学芸員やボランティアが先生と連携し、児童・生徒の発言を引き出しながら鑑賞します。
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため中止、または人数制限の場合があります。

お問い合わせ: ふくやま美術館 TEL 084-932-2345 (火~日曜日の8:30~17:00)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年1月	2月	3月
4/9	~ 6/5	7/9	~ 9/11	9/23	~ 11/20	10/1	~ 11/20	12/21	1/2~1/15	2/4	~ 3/19
特別展「アーツ・アンド・クラフツとデザインウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」											
特別展「絵本作家 谷口智則展～いろいろまれるものがたり～」											
特別展「リアル(写実)のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」											
第14回ふくやま子ども「生きる」美術展											
特別展「名刀 江雪左文字—江雪斎、家康、頼宣が愛した刀の物語—」											
春季所蔵品展「繰り返しのアート」											
夏季所蔵品展「つるつる？ざらざら？どきどき！オノマトベの美術」											
秋季所蔵品展「城下町福山 屋外モニュメントと芸術家」											
冬季所蔵品展「戦後日本美術の前衛—具体美術を中心に」											
秋季所蔵品展「福山城築城400年記念事業「水野勝成と徳川四天王—神君家康の守護者達—」											
冬季所蔵品展「福山城築城400年記念事業「水野勝成と徳川四天王—神君家康の守護者達—」											